

# FCP⇒VirtualVTR ワークフローマニュアル

## 1. FCP からの出力準備

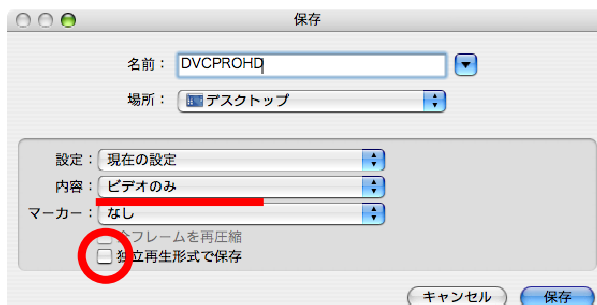
①FCP で作成したシーケンスの QT リファレンスを書き出します。

(1) ブラウザ上のシーケンスを右クリック→書き出し→「Quicktime ムービー」を選択

(2) 「内容」プルダウンメニューを「ビデオのみ」に変更する

(3) 「独立再生形式で保存」のチェックが外れている状態で「保存」をクリック

※QT リファレンスの保存は、出力させるシーケンスのレイヤー数、カット数、エフェクトの量などによって時間がかかることがあります。



②QT 出力させたシーケンスのオーディオファイルを、ProTools に渡すために OMF に変換します。

(1) ブラウザ上のシーケンスを右クリック→「書き出し」→「オーディオを OMF に」を選択

(2) のりしろの長さなどを設定し、OK ボタンを押す。



①、②で書き出しを行うと、



このような二つのファイルが出来上がります。OMF に関しては、FCP だけが入っている Mac では読めないため、真っ白なファイルになりますが、ProTools が入っている Mac からは読めますので、ご安心下さい。

※書き出した OMF は、ProTools に移動をします。

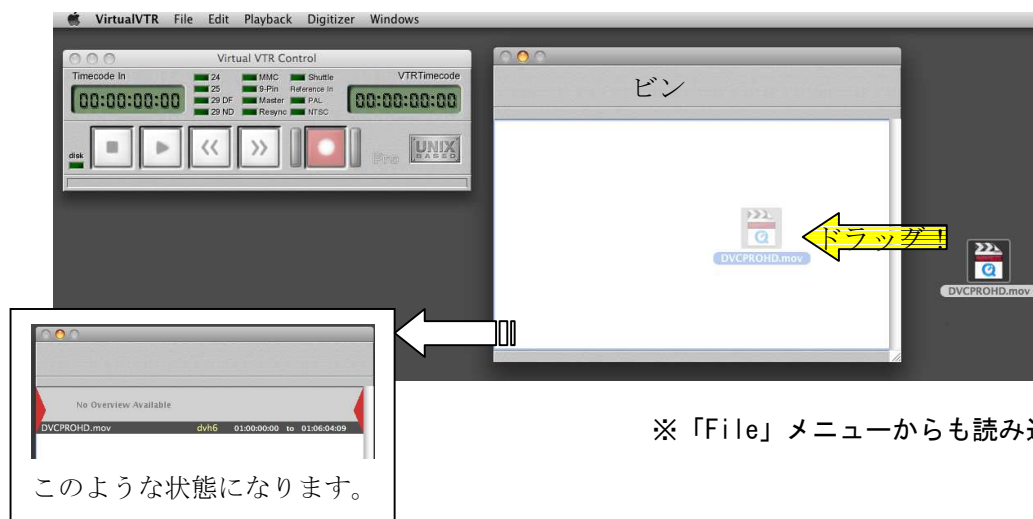
## 2. VirtualVTR の設定

**注意** : KONA の RS422 (9pin) ポートを使用して Mac (VirtualVTR) がスレーブになる場合、  
9pin リモートケーブルはクロスケーブルを使用してください。

### ① VirtualVTR を起動



② VirtualVTR から出力させたい QT リファレンス (もしくは QT ファイル) をビンにドラッグ&ドロップすると、ファイルが読み込まれます。



※ 「File」メニューからも読み込めます。

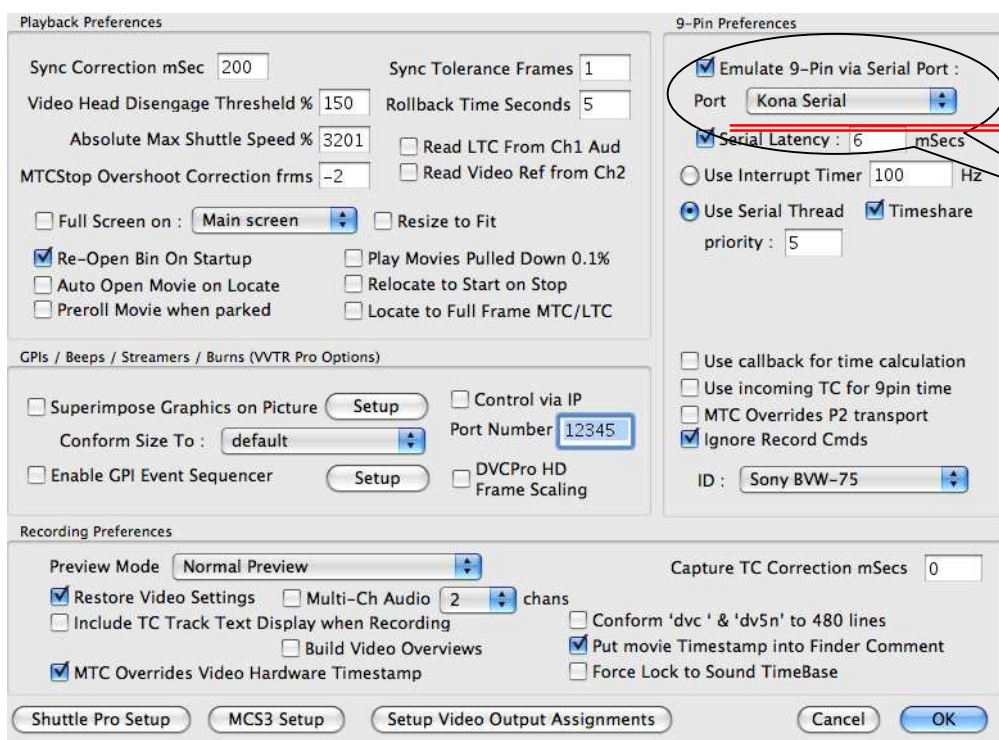
③ 読み込まれたファイルをダブルクリックし、ビン上でダブルクリックし、映像表示画面を出します。

こんな画面が出てきます。KONA から映像を出力させる場合、Mac の画面上では映像を見ることはできず、「See External Monitor」と表示されます。

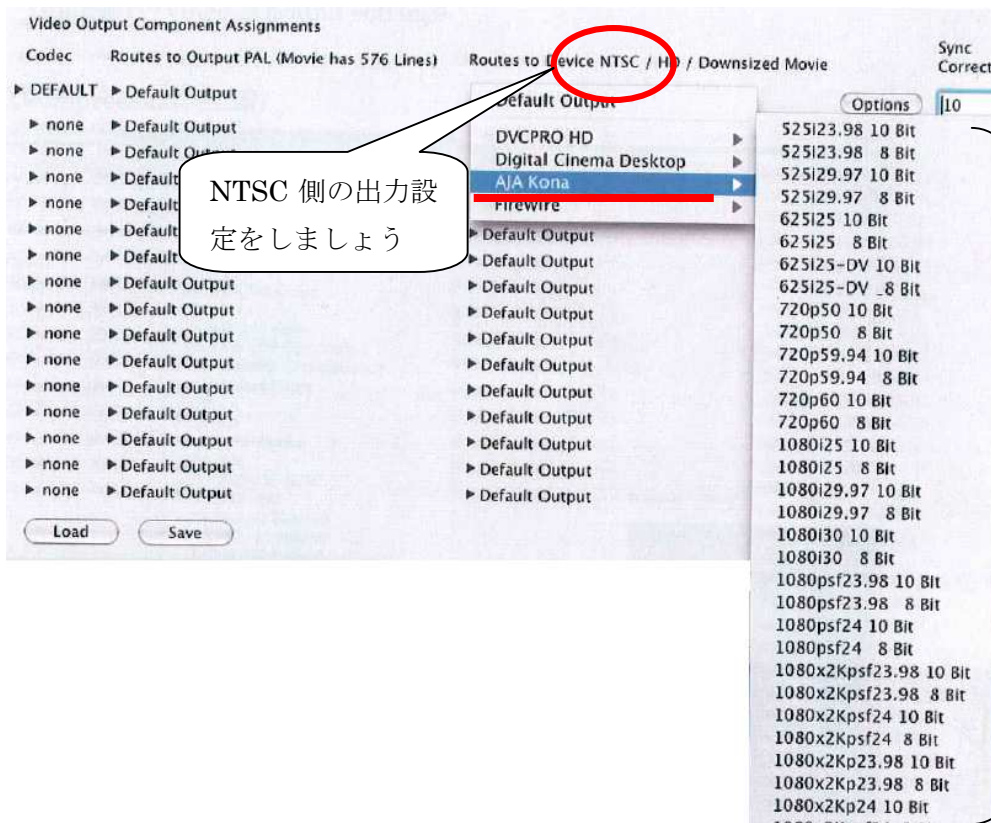


## ☆VirtualVTR 設定

↓ 「VirtualVTR」メニュー⇒「Preferences」⇒「GeneralPreferences」を選択



↓ 「VirtualVTR」メニュー⇒「Preferences」⇒「Video Output Assignments」を選択



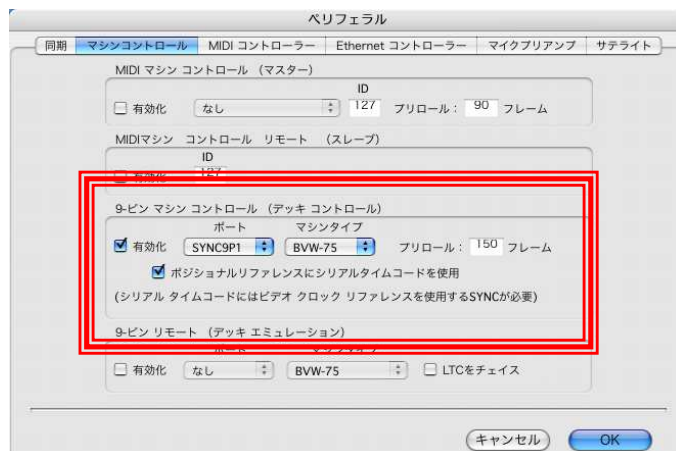
これで VirtualVTR 側の準備は完了です。

### 3. ProTools の設定

ProTools で、セッション、OMF などを開いたら、9pin の設定をします。

(1) 「設定」メニューから「ペリフェラル」を選択

(2) 「9pin マシンコントロール」の「有効化」にチェックを入れ、マシンタイプを「BVW-75」に設定し、OK を押す。



この段階で VirtualVTR の Mac と通信が取れていない場合、マシンタイプを設定できません。その場合は、VirtualVTR の設定をご確認下さい。